

(仮訳和文: 原文はブルガリア語)

ブルガリア「24チャーサ」紙による河津西バルカン担当大使インタビュー

(2021年2月14日付)(記者:ゲオルギ・ミルコフ)

1 西バルカンに関する最近の動き

(問)河津大使、西バルカン担当大使として、ベルリン・プロセス及び(昨年ベルリン・プロセス共同議長を務めた)ブルガリアと北マケドニアの関係等を注意深くフォローされていると思いますが、最近の動きに関する印象はどのようなものでしょうか。

(答)2014年のベルリン・プロセスの立ち上げから、地政学的要衝に位置する西バルカン地域への国際社会の関心、そして西バルカン諸国の欧州統合の重要性についての認識は、この6年間で着実に高まっていると感じます。

この点、2018年前半のEU議長国として、西バルカンの欧州統合推進を最優先課題として掲げ、対西バルカン支援の重要性を強く訴えたブルガリアの役割は非常に大きいものであったと評価しています。

昨年、ブルガリアがベルリン・プロセスの議長国として、北マケドニアとの共同開催で、11月にソフィアでの西バルカン首脳会合をホストし、地域共通市場とグリーン・アジェンダに関する宣言への署名という成果を実現したことに祝意を述べたいと思います。

昨今のブルガリア・北マケドニア間の二国間関係の緊張化は、バルカン地域の複雑な歴史的背景を我々に再認識させるものでした。歴史にからむ問題は当事者以外には分かりづらい難しい側面があり、解決は容易なものではないと理解しますが、ベルリン・プロセスの精神に則り、ブルガリアと北マケドニアが、2017年に署名されたブルガリア・北マケドニア間善隣友好条約に基づき、地域の安定と発展のために建設的な努力を継続することを期待しています。

2 西バルカン協カイニシアティブ

(問)2018年の安倍総理(当時)のブルガリア訪問時に打ち出された西バルカン協カイニシアティブのビジョン(展望)について教えて下さい。

(答)2018年1月、ブルガリアが初のEU議長国に就任したタイミングで、当時の安倍総理が、日本国総理大臣として初めてブルガリアを訪問しました。史上初となった日本の総理大臣のソフィア訪問中に、日本が、「西バルカン協カイニシアティブ」の立ち上げを発表し、西バルカン諸国の欧州統合支援へのコミットメントを表明したことは偶然ではありません。その後、日・ブルガリア間のパートナーシップが、対西バルカン支援という新たな協力分野において加速的に拡大していったことは自然な流れでした。

「西バルカン協カイニシアティブ」の発表以降、日本は、新たに同地域に大使館を開設したり、西バルカン担当大使を設置し、関係各国との対話を強化してきました。また、ベルリン・プロセスの取組を補完するようなかたちで、日本として、ブルガリアのようなEUの有志国や関係機関とも協力・連携しながら、EU加盟を目指す西バルカン諸国の経済・社会改革を支援し、地域内の協力促進の実現を後押ししています。具体的には、ODAを活用した西バルカン各国への開発協力支援、域内共通の課題である防災や中小企業振興といった個別分野における日本の知見共有、諸民族間の和解・協力促進に資する交流事業などを行っており、昨年2月には、西バルカン基金と協力し、アルバニアのティラナにおいて「西バルカン市民サミット」も開催しました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来のような交流事業等の実施は中断を余儀なくされていますが、日本政府は、引き続き、「西バルカン協カイニシアティブ」を推進していく考えです。また、私自身も、西バルカン担当大使として、同イニシアティブの下での日本の取組の更なる強化・発展に向けて尽力していきます。

3 西バルカン地域の安定と繁栄の重要性

(問) 日本は地理的に遠く離れていますが、何故日本にとって、西バルカン地域の相互理解促進や強く結束した欧州がそれほど重要なのでしょうか。

(答) 日本とEUの間では、2018年7月、日EU経済連携協定(EPA)及び戦略的パートナーシップ協定(SPA)という、2つの画期的かつ歴史的な協定が結ばれました。これは、保護主義的な動きが世界で広がる中、自由、民主主義、法の支配や人権といった基本的価値を共有する日本とEUが、自由貿易の旗手として、また、普遍的価値のガーディアンとして、ルールに基づく自由で開かれた国際秩序を維持・拡大し、国際社会の平和と繁栄をリードしていく決意を確認するものです。これは、欧州が強く結束していることこそ、日本にとっても利益になるという認識を踏まえたものです。

西バルカン諸国が欧州の一員として安定と発展を実現し、欧州が基本的価値の下で結束することは、欧州全体、ひいては国際社会全体の安定と発展にとって欠かせません。近年、西バルカン地域では、その地政学的重要性を背景に、いくつかの第3国による影響力拡大の試みが見られ、欧州の分断、不安定化への懸念材料となっています。アジアと欧州の境に位置するバルカン地域の中でも、かつて「欧州の火薬庫」と呼ばれ、複雑な紛争の歴史や民族問題を有する西バルカン地域は、不安定化の要素を抱えており、放っておけば基本的価値観を共有しない勢力による影響力の浸透を招くことに繋がるでしょう。

日本は、結束する欧州を支持しており、西バルカン諸国の未来がEUと共にあると信じています。従って、「西バルカン協カイニシアティブ」は、単に日本と西バルカン諸国の二国間協力を目指したのではなく、西バルカン諸国の欧州統合を支援することを主眼としたものです。日EU・SPAを基礎として、日本は、欧州の平和と安定の鍵とも言える西バルカン諸国のEU統合の後押しを通じ、EUと共に国際社会の安定と繁栄の実現に向けて貢献する役割と責任を担っているのです。地理的に遠く離れた日本が、「西バルカン協カイニシアティブ」を効果的かつ持続的に展開していくためには、西バルカ

ン各国との緊密な関係を有し、同地域についての知見、そして対西バルカン支援に意欲的なブルガリアのような国との協力が非常に重要です。

4 日本とブルガリアの具体的協力

(問) (西バルカン協カイニシアティブの下での) 日本とブルガリアの具体的協力はどのようなものですか。

(答) 日・ブルガリア間での具体的協力の例としては、防災及び中小企業育成分野において、ブルガリア政府のODA予算と人材、そして日本の知見を組み合わせた対西バルカン協力共同プロジェクトが成功裡に実現されています。

例えば、防災分野では、2019年2月、ブルガリア政府との共催により、西バルカン及びブルガリアに共通する広域的課題である水害・洪水対策に焦点を当てた防災セミナーをソフィアで開催しました。日本とブルガリア、西バルカン6か国、さらに国際機関などから防災関係者約60人がソフィアに集まり、防災政策の枠組みや法制度、水予防のインフラ整備、防災教育などについて活発な議論が行われ、防災関係者のネットワーク構築にも繋がりました。今年秋には、地震をテーマに、第2回防災セミナーの開催が予定されています。

中小企業育成分野では、日本とブルガリア、北マケドニアの三角協力による大学間連携事業が行われています。ブルガリアは、EU加盟前、JICAの技術協力を受け、世界経済大学に経営人材育成のためのビジネスコースを立ち上げた経緯があります。その世界経済大学が、2019年秋、当時の知見と人材を活用し、ブルガリア政府とJICAとの協力により、北マケドニアのスコピエ大学に中小企業経営者育成講座を立ち上げるプロジェクトを実現しました。この講座は、昨年12月に第2回目の開講式を迎え、日本からも長崎大学から講師陣が参加しました。また、今後、西バルカンSMEフォーラムをソフィアで開催すべく、世界経済大学を含む関係者間で準備が進められています。

また、コロナ禍の下での日本の知見共有の取り組みとしては、昨年10月、日本学科を有するソフィア大学において、JICAの協力による日本研究講座が開設され、日本の開発協力経験等を紹介するオンライン講義が大学との共催で行われています。

かつて日本のODAの被援助国であったブルガリアが、今度は援助国として、日本と共に、対西バルカン協力を実現していることは非常に喜ばしく、また、理想的な協力・連携の姿と言えます。大変幸運だったのは、ブルガリア外務省が日本との協力に大変前向きな姿勢を示し、上述プロジェクトへのODA予算の拠出から実際の実現まで主体的な役割を果たしてくれたこと、また、ブルガリア内務省や世界経済大学、JICA 同窓会やソフィア大学などの日本との具体的協力を実際に推進する意思と能力のある強力なパートナーに恵まれたことです。この場を借りて、こうしたブルガリア側の関係者に対し、感謝の意を表したいと思います。ブルガリアとのこうした素晴らしいパートナーシップは、日本とブ

ルガリアの伝統的な友好・信頼関係に基づくものであり、日本はブルガリアと協力・連携を引き続き重視します。

5 コロナ禍での多国間外交

(問) 殆ど全ての国が COVID-19 との闘いに追われている状況で、効果的な多国間外交を推進することは一体可能なのでしょうか。

(答) 新型コロナウイルス感染症の流行から半年以上が経ちました。新型コロナの流行により、世界中がかつて経験したことのない危機に直面しています。世界中の人々が COVID-19 という同じ一つのテーマについて話し、同じ恐怖を経験しています。この共通の歴史的脅威に対して、私たちは一人で立ち向かうことはできません。かつてのような自由な往来が制限を受け、各国はオンラインでの対話といった工夫をこらし、知見の共有等に努めています。今こそ多国間的外交の真価が問われており、日本はブルガリアを始めとする EU 諸国とも協力しつつ、この世界的危機に立ち向かっていきます。

(了)